

緑化だより

No.166 令和2年11月号



オオモミジ

- 季節の花(タデ)
- 昆虫の話
(里山の前衛芸術・ヌルデシロアブラムシ)
- 小さな世界こけ(コケが観察できる場所(10))
- 研修会のご案内
- 展示会
- お知らせ・ご案内

広島県立大学の木々

広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園

〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843

URL <https://ryokka-c.jp>



季節の花

タデ

「我が宿(やど)の穂蓼古幹(ほたでふるから)摘(つ)み生(おほ)し

実になるまでに君をし待たむ」

詠み人知らず

万葉集

巻 11-2759

これを訳しますと

(我が家の庭の穂になつた蓼(たで)の古い茎から実を摘んで、新たに種を蒔いて大きく生やし、来年には実が結ぶようになるまでに、愛しい貴方が訪れるのを、ずっと待ち続けましょう。一緒になれる日が来るのを願って)

タデ科タデ属の種類は多く、日本全土の野山や水辺に自生しています。タデ属はイヌタデのような1年生の陸地生とサクラタデのような多年生の水地生に分けられます。秋に枝先に赤や白の花穂を出します。日本に自生するタデにはイヌタデ、オオケタデ、サクラタデなど50~60種があります。食用になるのはヤナギタデのみです。

ヤナギタデは北海道~沖縄、台湾、中国大陸、北半球に広く自生しています。乾いた河原や湿地水際に生える一年草で高さは40~80cmです。和名は葉が柳に似ていることからヤナギタデといいます。9~10月にかけて、淡紅色の長い花穂が垂れ気味に咲き、晩秋には紅葉します。全草にピリツとした刺激のある辛みがあり、このような辛い草でも食べる虫がいることから、「蓼食う虫も好き好き」ということわざが生まれました。辛みがあることから別名はホンタデ、マタデとも言われます。タデの葉を二杯酢ですり潰した「たで酢」は、鮎の塩焼きなど日本料理にはつきもので、鮎の香りをより引き立てる為の欠かせない調味料です。平安時代から、ヤナギタデの新葉は食用に、実は香辛料、根は漢方としてごく普通に利用していたようです。江戸時代には栽培品種も多く作られています。ヤナギタデの変種でムラサキタデ、イトタデなどは刺身などのおいしい添え物となっています。



ヤナギタデ

ヤナギタデによく似た種にポントクタデがあります。花序はまばらで葉には斑点があり、辛みがありません。イヌタデは路傍や畑地に多い雑草で、赤紫色の小さな穂が垂れずに上向きに咲きます。別名を「赤まんま」といい、幼い頃のままごと遊びを思い出す方もあるでしょう。(上村)

昆虫の話

里山の前衛芸術・ヌルデシロアブラムシ

紅葉の盛りを過ぎた頃、ヌルデの木に赤や黄緑のいびつな形をした物体が付いているのを目にします。一見、果実のようにも見えますが、その正体は「ヌルデミミフシ」あるいは「五倍子」と呼ばれる虫こぶです。この虫こぶは葉が枯れた後もしばらく残るため、木の葉が落ちる晩秋から初冬にかけてよく見かけます。また同じ時期に、この虫こぶの先端が割れて、そこから白い埃のような虫が飛ぶ様子を目に



ヌルデミミフシ

することがあります。この虫こそが虫こぶを作った主、ヌルデシロアブラムシです。

ヌルデシロアブラムシの虫こぶは、かつては人々の生活に欠かせないものでした。こぶに含まれるタンニン酸は皮なめしや染物、金属のさび止め、お歯黒に用いられます。そのためかつてはヌルデミフシを集め、様々な用途に活用してきました。他の代用品が現れるにつれて虫こぶを利用する機会は無くなりましたが、人体への影響の少ない自然素材として、近年再び注目されています。

ヌルデシロアブラムシは極めて複雑な生活史を持つ昆虫です。虫こぶから飛び立った成虫は、チョウチンゴケへ降り立ち、幼虫を産みます。幼虫はゴケの上で成長し、春になると翅をもつ成虫となって再びヌルデへ戻ってきます。その後ヌルデ上に虫こぶを形成し、その内部で繁殖するのです。このように季節によって異なる植物を渡り歩くことで、天敵や病気の発生を避けていると考えられています。その後、虫こぶの中で成長したアブラムシは、晩秋になると外へと飛び立ちます。その姿はまるで粉雪のようで、冬を告げる虫、雪虫と呼ばれてきました。もし山で虫こぶを見かけたら、雪虫たちが出てきていないか、ぜひ観察してみてください。

(市森林公園 こんちゅう館 逸見)

小さな世界 こけ

コケが観察できる場所(10)

紅葉を楽しみながら、つばき園から樹木見本園に移動してみましょう。

樹木見本園の樹木には、タイ類のカラヤスデゴケや、セン類のサヤゴケ、カラフトキンモウゴケ、ヤノウエノアカゴケ、コバノイワイトゴケ、ノミハニワゴケ、ハイゴケ、ミノゴケなどが見られますが、今回はミノゴケを取り上げます。

ミノゴケは、日当たりの良い場所の乾いた樹幹や岩などに生育します。

乾燥しているときは、粒のように丸まった葉が、樹幹に密についています。湿ると、丸まっていた葉は放射状に広がります。ルーペで細部を観察すると、樹幹や岩に着生した茎は伸び、途中から枝分かれしています。枝分かれした茎には株が並ぶようについています。入り組んだ茎では、株は塊になっています。

葉は、長さ1.5~2.5 mm、舌状で、乾燥しているときは強く巻き込みます。湿り気があると広がり、先端はフックのように少し巻いています。9月頃から作られる孢子体は、長さ3~5 mmの柄で、蒴は毛に覆われた帽に包まれています。

この毛を蓑(ミノ)に見立てたのが名前の由来です。

センター池付近の石垣では、ヒメミノゴケが見られます。葉はミノゴケより細く、蒴の帽には、縦ひだはありますが毛はありません。(山根)



ミノゴケ(乾燥した時)



ミノゴケ(湿潤な時)



帽をかぶったミノゴケの蒴

研修会のご案内

- 11月1日(日)『自由工作塾』
木の実や枝を使って自由に工作
※ 自由参加、随時受付、材料費1作品100円
10:00～15:00 レストハウス前広場
講師:緑化センター ボランティア
ふれあい湧
- 11月2日(月)『松の手入れ(秋)』
もみあげや秋の手入れを学ぼう
※ 要予約(先着20名)、無料、剪定バサミ、手ノコ持参
10:00～12:00 学習室 集合
講師: NPO法人「樹木医ひろしま」
工藤 徹
- 11月3日(火・祝)『自由工作塾』
木の実や枝を使って自由に工作
※ 自由参加、随時受付、材料費1作品100円
10:00～15:00 レストハウス前広場
講師:緑化センター ボランティア
ふれあい湧
- 11月3日(火・祝)『たね団子を作ろう』
種を練りこんだ団子を作り、花壇に植えよう
※ 自由参加、無料
11:30～12:00, 14:00～14:30 レストハウス前広場
講師:緑化センター 職員
- 11月8日(日)『たね団子を作ろう』
種を練りこんだ団子を作り、花壇に植えよう
※自由参加、無料
11:30～12:00, 14:00～14:30 イベント会場 集合
講師:みずえ緑地 職員
- 11月13日(金)『11月の自然探勝』
落葉樹の冬支度を観察しよう
※ 自由参加、無料、ルーペ持参
10:00～12:00 学習展示館前 集合
講師:森林インストラクター
駄賀 恒男
- 11月13日(金)『シダの学習会 No.2』
シダ植物と種子植物の違いを見てみよう
※自由参加、無料、ルーペ持参
13:30～15:00 学習室 集合
コーディネーター:
駄賀 恒男
- 11月18日(水)『三本木山 自然探勝』
～アラカシからツクバネガシへ～
三本木山山頂を目指しながら観察します
※自由参加、無料、雨天中止
10:00～12:00 学習展示館前 集合
講師:広島県文化財保護審議会委員
(植物生態学)
吉野 由紀夫
- 11月23日(月・祝)『整枝・剪定講座』
剪定の基本を身につけよう
※ 要予約(先着20名)、無料、剪定バサミ・手鋸持参、見学不可
10:00～12:00 緑の相談所 集合
講師: 樹木医
難波 正孝

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制するため、
参加者はマスク着用、手・指の除菌、密集・密接を避けるようご注意ください。

☆お知らせ・ご案内☆♪

Instagram フォトコンテスト 2020 秋

応募期間 ～11月30日(月)

秋のおでかけキャンペーン ～11月15日(日)

もみじ祭り2020 ～11月15日(日)

詳細はチラシをご覧ください。

第24回 みどりの集い (管理事務所・苗畑周辺)

11月8日(日) 10:00～15:00

詳細はチラシをご覧ください。

展示会

場所:レストハウス

(ガラスケース展示)

・DECO クレイクラフト展

11月2日(月)～1月24日(日)



昨年の「DECO クレイクラフト展」より